

古いけれども古びない。歴史があるから新しい。

清と濁の間

第19回京都大学人文科学研究所TOKYO漢籍SEMINAR

銘文と考古資料が語る曹操とその一族

三世紀の牛車と騎馬

曹操から楊彪への書簡を糸口として

京都大学名誉教授
公益財団法人黒川古文化研究所長

岡村秀典

厚葬から薄葬へ

曹操とその一族の墓を掘る

京都大学人文科学研究所准教授

向井佑介

石牌銘文からさぐる
曹操一族の宮廷生活

大手前大学国際日本学部教授

森下章司

2024年3月11日[月] 10:30 - 16:00 聴講無料・要申込み

会場 / 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場
(千代田区一ツ橋2-1-2)

聴講ご希望の方は、右記URLのフォームから氏名・連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)をご記入の上、お申し込みください。**[3月11日(金)17:00 締切]**。
受講票(ハガキ)をお送りいたします。(3月初旬から順次発送)

会場ではなくオンラインによる開催になる場合があります

京都大学人文科学研究所
附属人文情報学創新センター

〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町47

E-mail kanseki-tokyo@zinbun.kyoto-u.ac.jp

URL http://www.ciih.zinbun.kyoto-u.ac.jp/2024_kanseki_tokyo



セミナーお申し込み
フォーム

○詳しくは裏面をご覧ください。

清と濁の間

銘文と考古資料が語る曹操とその一族

《今回の概要》

『三国志』の英雄、曹操——当時その人物は「乱世の姦雄」と評され、近世の小説では悪役ながら人気があります。曹操は「濁流」と呼ばれた後漢末の宦官の家に出自しながら、儒家的教養をもつ「清流」の知識人を多く登用し、また自身とその息子たちも一流の教養をそなえ、詩や音楽にも通じていたといえます。中国では2008年に曹操の墓が発見され、日本でも大きな話題になりました。翌2009年には曹休の墓が、2015年には明帝曹叡の近親者のものとみられる大型墓が発掘され、3世紀前半の曹魏大型墓の実態が次々と明らかになってきました。

地中から発掘された考古資料と銘文、そして文献史料の記載を照合することで、何がわかるのでしょうか。本セミナーでは、書物の世界にとどまらず、出土文字資料と考古資料に焦点をあて、当時の貴族たちの乗物や宮廷生活、喪葬習俗など、さまざまな角度から『三国志』の時代を掘り下げていきます。



●参加定員／80名(申し込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／3月1日(金) 17:00 締切

*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

●プログラム

司会 永田知之(人文科学研究所准教授)

10:30~10:45	◎開会挨拶	人文科学研究所長 岩城卓二
10:45~11:45	◎講演	三世紀の牛車と騎馬——曹操から楊彪への書簡を糸口として 京都大学名誉教授・公益財団法人黒川古文化研究所長 岡村秀典
11:45~13:00	◎休憩	
13:00~14:00	◎講演	厚葬から薄葬へ——曹操とその一族の墓を掘る 京都大学人文科学研究所准教授 向井佑介
14:00~14:20	◎休憩	
14:20~15:20	◎講演	石牌銘文からさぐる曹操一族の宮廷生活 大手前大学国際日本学部教授 森下章司
15:20~15:35	◎休憩	
15:35~15:55	◎質問への回答	
15:55~16:00	◎閉会挨拶	

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2)

一橋大学一橋講堂中会議場



■会場への交通機関

- ・東京メトロ半蔵門線
- 都営地下鉄三田線・新宿線
- 「神保町駅」A8出口より徒歩5分
- ・東京メトロ東西線「竹橋駅」
- 1b出口より徒歩5分
- 都営新宿線
- 都営三田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東京メトロ東西線
- 高速道路